

みどり

社会福祉法人 八千代翼友福祉会 広報誌

第67号

2020.8.7

発行

社会福祉法人 八千代翼友福祉会

〒276-0040

八千代市緑が丘西5-20-2

TEL 047-458-7477

FAX 047-459-9541

http://park17.wakwak.com/~uimidorien/
E-mail: midorien@ca.wakwak.com

新しい事業所を紹介します!!

あいら

放課後等デイサービスのあいらは、小学1年生から6年生の障害のある子どもたちが放課後及び土曜・長期休暇中に通う施設です。あいらを利用してはいる子どもたちは今年度22名、1日最大10名があいらで様々な活動や体験を行っています。

主な活動として屋外では公園遊びや散歩、室内では制作活動やリズム、ミニゲーム、そして施設内にある庭でボール遊びや鬼ごっこなど、小学生が放課後に日常的にやっている活動をあいらでも行っています。土曜日や長期休暇中は様々な施設・公園への外出、また季節ごとにある様々な行事を通して社会経験を積み、興味・関心の幅を広げていくとともに今後の余暇活動に繋げていけるよう活動を行っています。

あいらの特徴として施設内に大きな庭があるため、公園に出掛けなくても屋外で身体を動かすことができます。ボール遊びや鬼ごっこだけでなく、ポルダリング・平均台などの遊具を使った遊び、夏はプールやバーベキュー、冬はもちつきや雪合戦など季節にあわせた体験も行えます。

あいらでは基本方針として「楽しいから始まる交流と成長」を目指しています。各種行事や外出など楽しい活動や経験の中で子どもたちの意欲が向上するように、個に応じた支援を子どもたちの立場に立って進めていけるよう努めてまいります。

ビータス

ビータスは、中学生、高校生を対象に、障害児通所支援の放課後等デイサービスを提供しています。本年度は19名の登録があり、1日最大10名が利用しています。

放課後の主な活動は、散策、運動、作業（缶作業・地域清掃等）、室内遊び（体操・パズル・ゲーム等）、制作等で、利用者一人一人のねらいをもって取り組んでいます。

特に、近くの農業交流センター周辺では、散策、ランニング、ボール遊びや縄跳び遊びなど様々な活動を展開しています。土曜日や夏休み・冬休みなどの長期休業中は、外出を行い自然に触れたり食事や買い物に行ったり、豊かな社会生活ができるよう経験を積んでいます。

普段の生活では、着替えや手洗い、持ち物の片づけ、遊んだ物の後始末、おやつでのマナーなど、一人一人の生活のスキルの向上にも注意を払って支援しています。

本年度は、「楽しさと安定の中で、自分を表現できる場としてのビータス」を目標に、「体と心の安定のための支援」「自分らしさを表現できる場」「集団の良さを個の成長に」という重点目標を設定して取り組んでいます。その取り組みの中で、中学生、高校生が当たり前に体験する事を当たり前に体験できる放課後の活動や長期の休みの活動となるように工夫していきたいと考えています。

きざし

「きざし」は平成24年に開所し、現在8年目となる生活介護の事業所です。開所時から「小規模」「地域の中で」を掲げ、現在10名の利用者達と日々の活動を行っています。

場所は高津団地の商店街の一角（リブレ京成の横）。もともと整骨院だった所を改装して使用しており、玄関を一步出ればすぐに周りの方と「こんにちは」の状況なので、物理的にも「地域と非常に近い」環境です。

活動は、畑での野菜作りと織物製品作りを「仕事」の柱とし、地域清掃やボランティア活動、外出やウォーキング等……とにかく外に出ていることが多く、日々きざしの「顔」を売っています。

利用者が10名という規模では、お互いの顔が常に見られる環境で、助け合いながら、時に揉めながら、刺激を受けたり与えたり。まさに「仲間」と呼べる関係性を見ることができています。

このように、団地の住民に囲まれないから、仲間とともに「はたらき」、野菜や織物製品を通じて地域と「つながり」、自分たちが地域のためにできる事を！と試行錯誤を続けています。これは、「地域で普通の市民としての生活を！」とも通じる取り組みですよ。

今後も「八千代翼友福祉会」の名に恥じぬよう、そして「きざしらしく」賑やかに！ますます顔を売って！活動を続けていきたいと考えています！

コロナに負けるな!!

生活介護事業所

友愛みどり園

友愛みどり園では、利用者が楽しみにしているプールも自粛しなければならぬ状況がありました。

緊急事態宣言が解除され、八千代市の健康福祉課から「今後のプールの利用方法について話し合いたい。」と声を掛けていただきました。話し合いは、健康福祉課課長を始めとする担当者の方、ふれあいプラザの館長との三者で行いました。私は、新しい生活様式を踏まえ、マスク着用が難しい利用者のことを考えると、現段階でのプール利用は難しいと判断しました。ところが、市の担当者もふれあいプラザの館長は、マスク着用が苦手な方でも利用できる方法はないかと検討してくれました。結果、館内を通らず直接プールに入れる方法を提案してくれました。この方法を使えばマスク着用が苦手な方でもプールを利用することが出来ます。7月1日、久しぶりにプールを満喫する利用者の姿を見ることが出来ました。

最後に、健康福祉課課長から、「この方法は一時的なもので、今後に向け、マスク着用が苦手な方でもスムーズに館内施設を利用できる方法を考えていかなければならない。」と問題提起をしてくださった言葉が心に響きました。

八千代市の担当者の方、ふれあいプラザの職員の方に感謝の気持ちでいっぱいです。

共同生活援助

ケアホームモヤイ

新しい生活様式

とは言うものの……。

昨年度末から「新型コロナウイルス」の影響で、GHの生活は何が変わったでしょうか。幸いなことに、利用者の皆さんはこれまでと変わらず日中活動に通うことが出来ています。また、我々職員も様々な家庭事情はありながらも通常勤務が出来ています。

何ら変わらない生活を続けているように思えますが、大きく変わった点と言えば「外出自粛」です。GHは主として夜間の生活ですので、外出機会はそれほど多いものではありません。しかし、まれに実現できていたナイトドライブや休日ある日は日中活動における外出は自粛が続いています。自粛を意識し始めて、4ヶ月が経過しようとしています。そのことで大きくリズムを崩してしまう方は出てきていますが、少しずつ違和感を抱いてきているのは確かです。

GH内では、手洗い・手指の消毒などをこれまでより強化してきました。しかし「三密」のうち「密閉」は避けられても、「密集」・「密接」をどのように避ければよいのかは答えが出ないままです。GHの良さを大切にしつつ、私たちにできる「新しい生活様式」見つけていきたいと思っています。

移動支援事業所

ふくろう

「あつ、久しぶりですね。いらっしやい！」通いなれたラーメン店の店員が利用者、職員にその声をかけてくれたのは6月も終わりを告げる頃でした。

今回のコロナ禍において、移動支援事業所「ふくろう」は社会の大きな変化を目の当たりにしました。外出において当然、感染を回避しなければなりません。そのため、移動時の公共交通機関の利用と屋内施設の利用を中止しました。また、食事も当初はテイクアウトのみで対応していました。そして外出時のマスク着用です。マスク無しで公園等を散策していると白い目で見られることもありました。「近場の公園を散策して、コンビニのお弁当を食べ、マスクが着けられないことで嫌な顔をされる、こんな余暇の過ごし方しかできないのかな？」そう自問自答する日々が続きました。

そのような中、利用者にも変化が見られました。ある利用者はいつも同じコースを通り、同じ店で食事をします。このパターンが崩れるのがとても苦手です。その利用者がなんとコースの変更を受け入れてくれたのです（家族の協力も大きいですが）。

また、コンビニ等の店内に入る時、利用者にマスク着用の声掛けをしました。その結果、ほとんどのの方が短時間ならマスクを着用してくれました。

このような時代ですが利用者は時に自分のこだわりを捨て、時に新しい事に挑戦する、そんな逞しい姿を見せる機会にもなったように思います。

冒頭の店員に「いらっしやい、いつもありがとうございます。」こんな風に声をかけてもらえる日常が早く来ることを願っています。

相談支援事業所

つむぎ

モニタリングやサービス等利用計画書を作成する時には、利用している事業所を訪問し、利用者の様子を見せてもらったり、職員から話を聞かせてもらっていました。しかし、新型コロナウイルスが流行し始めた頃から少しずつ事業所への訪問を断られるようになり、緊急事態宣言が出てからはすべての事業所から訪問を断られるようになりました。そのため、利用者の様子は電話で確認させてもらいましたが、何年も担当させてもらっていて活動内容が変わらない方は話を聞くだけでも様子を想像することができました。しかし、年度が切り替わったタイミングだったので、新たに担当させてもらった方や、通う場所が変わった方の状況を把握することがとても大変で難しさを感じました。また、ご本人やご家族とも電話での連絡が主になり、じっくりと話をすることは難しい方もいました。相談支援は顔を合わせた人と人との繋がりがとても大切だと改めて感じさせられました。

シリーズ

街は温かいかな？

第4回 家族へ聴く

今回は、友愛みどり園のご家族お二人に、インタビューをさせて頂きました。

1
CASE

Q. 長い間、地域で暮らしてきて、その中で「街は温かくなった」と感じますか？

A. 息子が生まれた時からご近所の方たちとは、関わりがありました。一緒に外へ出る時などに、ご近所の方へ声を掛ける事や、声を掛けてもらう事もありました。その様な普段の何気ない会話を通して、自然とご近所の方たちが、障害への理解や街の輪の様なものに繋がっていった様にも感じます。

息子が小さい頃、息子と同年の女の子たちが妹とよく遊んでくれていました。家に遊びに来てくれる事も多く、息子と笑いながら一緒におやつを食べていた姿。また、女の子たちだけではなくそのご家族にも良くしてもらいました。

Q. 実際にあった（感じた）その時のエピソード（思い）を教えてください。

A. 住んでいる地域でお祭りがあった日に、息子が家から居なくなってしまった事がありました。その時は、ご近所のみなさんが一緒になって探してくれ、家の前の方は、パトカーにまで乗って探してくれました。息子はバスに乗ってしまっていたのですが、バスの運転手さんもずっとバスに乗っていた息子へ声を掛けてくれ、交番に連絡してくれました。その後、無事に会うことができました。その時、近所の皆さんに感謝の想いと温かさを感じた事、今でも濃く覚えています。

Q. このインタビューを受けて、どんなことを感じましたか？

A. 地域や近所の方たちと普段から何気ない会話やコミュニケーションをしていくことの大切さ、人の温かさや優しさを改めて感じました。

インタビューを終えて

今回実際、ご家族へのインタビューをさせて頂き、家族の街に対する想いを深く感じる機会となりました。

また、街との繋がりが温かさを通してのエピソードを聴くことが出来ました。

今回ご家族に共通していたことは、温かくはなってきたという背景はありながら、「障害への理解してほしい」という言葉でした。昔より障害への理解は、濃くなってきている事が感じられます。ですが、今後もより街が温かくなっていく為に、一人ひとりが障害へと向き合い、考えていく事はこれから先も必要なのだと感じました。そして一人ひとりが意識をしていく事で、今以上に街の温かさへ繋がっていくのだと思います。

(K・T)

2
CASE

Q. 長い間、地域で暮らしてきて、その中で「街は温かくなった」と感じますか？

A. 約25年八千代市で過ごしていますが、今回のインタビューを通して思い出してみると、利用するコンビニなどのスタッフの対応などに温かみを感じることがあります。また近所の方が自分の子どもの様子を見てくれていた事もありました。

反対に子どもが中学校に上がったあたりから体が大きくなってきていた事もあり、周りの目を引くようになって、時には一般の方から子どもが出した声に対して注意を受ける事もありました。

同じ地域でもエリアによって障害者に対する理解度が違うようにも感じます。例えばみどり園の周りで暮らす方達は他の八千代市内エリアより障害者に対する理解が強く、他の八千代市内エリアより温かいように思えます。

Q. 実際にあった（感じた）その時のエピソード（思い）を教えてください。

A. 子どもが中学校時代に一人でバス停まで歩いていたのですが、諸事情でそれを止めた後に近所の方から「〇〇さん、最近見ないね。」と言われた事がありました。その時、「知らない所で見てくれていたのだな。」と感じ、とても嬉しかったです。

Q. このインタビューを受けて、どんなことを感じましたか？

A. 質問の趣旨とは少し離れてしまうかもしれませんが、天災が起きた時の地域や地域住民からの配慮に不安を感じています。

実際に天災が起きて、避難所へ行った際に障害を持っている方への配慮はあるのか、また障害があるからといって特別扱いして欲しくないという想いもあり、障害者またその家族の気持ちは……と考え不安になることがあります。その為、今後も様々な方に少しでも障害への理解をして頂き、「少しでも街の目が温かくなれば」という想いがあります。

今回のインタビューを通して周りから怒られたこともあったけど、嬉しいと感じたことも思い出せていい機会となりました。ありがとうございました。

社会福祉法人 八千代翼友福祉会 2019 年度 決算報告

※事業報告及び他財務諸表は、ホームページで公開しております。

法人単位貸借対照表 2020年3月31日現在

第三号第一様式 (単位:円)

資 産 の 部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	209,813,408	171,777,185	38,036,223
現金預金	147,778,557	114,667,908	33,110,649
事業未収金	55,011,477	51,676,394	3,335,083
未収収益	6,091,429	4,295,263	1,796,166
立替金	261,680	0	261,680
前払費用	670,265	1,137,620	△467,355
固定資産	448,107,593	449,696,660	△1,589,067
基本財産	305,649,586	318,691,555	△13,041,969
土地	34,572,581	34,572,581	0
建物	261,077,005	274,118,974	△13,041,969
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
その他の固定資産	142,458,007	131,005,105	11,452,902
土地	8,674,219	8,674,219	0
建物	12,413,159	13,461,627	△1,048,468
構築物	8,443,281	9,522,006	△1,078,725
車輛運搬具	4,940,461	3,274,866	1,665,595
器具及び備品	1,367,879	1,830,775	△462,896
権利	152,880	152,880	0
ソフトウェア	0	43,560	△43,560
修繕積立預金	86,000,000	73,000,000	13,000,000
借入金返済用預金	20,368,908	20,949,532	△580,624
長期前払費用	97,220	95,640	1,580
資産の部 合計	657,921,001	621,473,845	36,447,156

負 債 の 部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増 減
流動負債	35,522,392	33,306,466	2,215,926
事業未払金	7,979,135	8,370,224	△391,089
1年以内返済予定設備資金借入金	6,360,000	6,480,000	△120,000
未払費用	21,183,257	18,456,242	2,727,015
固定負債	32,900,000	40,140,000	△7,240,000
設備資金借入金	32,900,000	40,140,000	△7,240,000
負債の部 合計	68,422,392	73,446,466	△5,024,074

純 資 産 の 部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増 減
基本金	37,823,192	37,823,192	0
第1号基本金	36,573,192	36,573,192	0
第2号基本金	1,250,000	1,250,000	0
国庫補助金等特別積立金	145,276,617	152,925,810	△7,649,193
その他の積立金	106,368,908	93,949,532	12,419,376
修繕積立金	86,000,000	73,000,000	13,000,000
借入金返済積立金	20,368,908	20,949,532	△580,624
次期繰越活動増減差額	300,029,892	263,328,845	36,701,047
(うち当期活動増減差額)	49,120,423	55,970,629	△6,850,206
純資産の部 合計	589,498,609	548,027,379	41,471,230
負債及び純資産の部 合計	657,921,001	621,473,845	36,447,156

法人単位資金収支計算書 (自) 2019年4月1日 (至) 2020年3月31日

第一号第一様式 (単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	事業活動収入計(1)	292,601,000	319,275,138	△26,674,138
	事業活動支出計(2)	276,970,710	260,448,941	16,521,769
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	15,630,290	58,826,197	△43,195,907
施設整備等による収支	施設整備等収入計(4)	0	79,220	△79,220
	施設整備等支出計(5)	9,900,000	10,784,164	△884,164
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△9,900,000	△10,704,944	804,944
その他の活動による収支	その他の活動収入計(7)	6,600,000	6,680,674	△80,674
	その他の活動支出計(8)	19,084,000	19,101,630	△17,630
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△12,484,000	△12,420,956	△63,044
予備費支出(10)	0	—	0	
	△0			
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△6,753,710	35,700,297	△42,454,007	
前期末支払資金残高(12)	144,950,719	144,950,719	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)	138,197,009	180,651,016	△42,454,007	